

技術・普及に向けて

森林ふれあい担当者等会議

平成二五年度「森林ふれあい担当者等会議」を七月二日・三日の二日間、局において開催しました。一日目は、技術普及課の業務・取組等について打合わせ・意見交換、また、森林総合利用研修受講者から伝達等を実施、二日目は、森林技術・支援センター職員による「シカ囲いわな」の組み立て・分解まで等を学びました(写真上)。

担当者から「囲いわな」の設置場所や期間、シカが捕獲できない場合の囲いわなの移動等について質問等が寄せられました。

続いて徳善政明さん(局OB 森林の達人)から高知城周辺の奇木・珍木なども含め樹木の特徴などを学びました(写真下)。

二日間の会議を通じて、局署等の取組についても積極的に意見交換をする場面も多く見られました。今回の会議で得られた内容を今後の業務に活かしてください。



研究発表事例にまなぶ

嶺北署(20年度発表)

課題名「法面緑化によるシカ害軽減方法の検討について」

発表のあらまし

管内でもシカ害が増加。シカ害は造林木食害と剥皮害に止まらず、治山・林道工事で施工される法面緑化が食害に。本発表は、法面緑化をシカ食害から保護する一方法として、施工面を金網で覆う方法を実施、その食害状況と効果を検証。

調査の概要

- ・ 3種類の金網で試験
 - 菱形(腐食促進型、目あい150mm)
 - 菱形(目あい150mm)
 - 亀甲金網(目あい145mm)
 - 対照区
- ・ 導入植物: ヨモギ・イタドリ・ヤシャブシ

結果

シカの踏み荒らしや食害に対して、菱形金網は強度はあるが、亀甲金網は劣り食害等が見られた。

今後の展開

間伐材等を利用して、金網を浮かせる方法等も試験的に取り組むこととして、本課題の継続と新たなシカ害対策にも期待。



「CLT」って
(直交集成板)



(CLT)

「CLT」(直交集成板)は、クロス・ラミネイティッド・ティンバーの略称。

CLTの定義は、ひき板又は小角材(これらその繊維方向を互いにほぼ平行にして長さ方向に接合して調整したものを含む)をその繊維方向を互いにほぼ平行にして幅方向に並べ又は接着したものを、主としてその繊維方向を互いに直角にして積層接着し3層以上の構造を持たせた一般材。農林水産省は、6月13日に規格化する案を公表。パブリックコメント後、今秋のJAS調査会に諮り、今年度末に規格化される見通し。

編集後記

平成25年度「四国森林・林業研究発表会」の開催日程が26年1月23日(木)に決まりました。全署等から発表をお願いします。